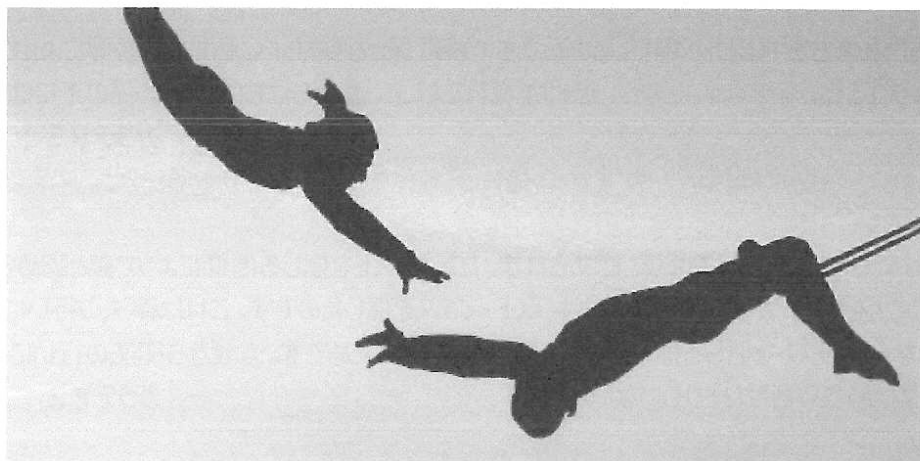


<恵みを知り、恵みに生きる>

ガラテヤ2章19～21節



ありのまま……「実際にあった通り、事実のまま」
存在そのものがどうあるか。Being ビーイング
(Doing ドゥーイング・対義語)

自分が「何をするか」ではなく、自分は「どうあるか」という
「ありのまま」の自分を直視できないのは何故か……。

神との関係が絶たれ瞬間(アダムとエバ)から、人はありのままでは生きていけなくなった。

自分がどうあるか「Being」に覆いをかぶせて、行い(Doing)に走る。
木から切り離された枝が、枝だけで一生懸命実を結ぼうとするようなもの。

わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。ヨハネ15：5

イエスさまを信じて生きるとは……
「そのままの自分の存在を、神が受け入れ愛されている」この事実に安住すること。

◆努力してきた、それで結果を出してきた。そのような「自分」が中心にある時には、「恵み」という世界は理解しにくい。

【ガラテヤ教会の問題】

イエスキリストを信じるだけでは足りない！今までのように、律法を守り割礼を受けなければ、救われない。「恵み(値なし)による救い」が逆行していた。

徹底して律法に生きたパウロ。それによって自分が罪人であることを悟った。
私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

ローマ 7:24

律法は私たちがキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。しかし、信仰が現れた以上、私たちはもはや養育係の下にはいません。

ガラテヤ 3 : 24、25

パウロは復活したイエス様に会って、はっきりわかった。

人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリストを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら律法の行いによって、義と認められる者はひとりもないからです。

ガラテヤ 2 : 16

◆再び、律法(行い)によって救いを得ようとするなら、それは、キリストの十字架など自分には不要だと言っているようなもの。キリストの死は無駄になってしまう。

パウロ

「キリストのように生きる決心をした」ではなく

「わたしはキリストの死によって、彼と等しくされた。」と言った。

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

【20節】

自分が持っている義、正しさは、どこまで行っても自分が中心。
神の規準である律法を全うできる義、正しさはない。

【サーカスの空中ブランコ】

「飛ぶ側の人を決して、つかまえてくれる人の手を自分からつかんではいけない。
完全に信頼して待つ」